

同窓会報

専修大学北上福祉教育専門学校
同窓会事務局

〒024-8513 岩手県北上市鍛冶町一丁目3番地1
TEL (0197) 61-2131 FAX (0197) 61-2423

印刷：川嶋印刷株式会社



福祉介護科

保育科



会報発行に寄せて



同窓会長
佐藤 峰樹

常日頃から、関係各位の並々ならぬご支援に對しまして、心より御礼申し上げます。
また、今年度も先生方や編集委員の皆様のご協力により『第十四号』を発行できましたこと、改めて感謝致します。

同窓会は、平成二十三年三月に新会員を迎え三九二一名となり、今までの歴史の深さを痛感するとともに、各分野で一翼を担っていると存じます。また、より高い専門性を身につけるため、日々努力されている姿は、新たに会員となられた卒業生にとつても励みとなり、永遠と続く礎になると確信致しております。

私は、福祉介護科を卒業して以来、高齢者分野に携わって参りました。その中で『受容・傾聴・共感』という言葉が、どれだけ大切であるかを知ることができました。

学生時代によく、受容とは「ありのままを受け入れる」と指導を受けました。また、傾聴や共感も相手の話をよく聴き、相手から発せられる言葉や感情に気づくこととする姿勢であると学びました。当時は、漠然とした言葉の意味は理解できても、本質的に理解することは不可能でした。しかし、仕事を通じ様々な人達との出会いや別れを繰り返して、少しずつ言葉の持つている意味がわかってきたように思います。

問題を抱えている人は、真の受容や共感を求めています。なぜならば、人はありのままの自分を認められるとき、その期待に応えようとしません。また、最善の自分になるうともします。問題を抱えた人は自信を失っており、ありのままの自分を認めて欲しいと願っています。こうした思いを我々支援者は知らなければなりません。常日頃から強く感じております。

私達専門職は、日々問題を抱えた人達と直接向き合っており努力しております。特に高齢者・保育分野共通して虐待の問題が上げられます。先程も述べたとおり、虐待を受けてしまう側の処遇も大切ですが、虐待をしてしまう側の心の声を聞き入れる、正に受容し共感することが、日常の暮らしの中で少なくなってきたのではないかと思うときがあります。

こうした日常起こり得る課題に對して、私達は積極的に関わり、地域の社会資源となるよう日々努力する必要があります。これから社会人となる方々も、一日一日を大切に生きていくことを、皆から信頼される専門職に成長してほしいと願っております。

最後に、いつも温かく接してくださる校長先生を始め諸先生方に感謝を申し上げ、母校の益々の発展と同窓会会員各位のご健勝を祈念し結びと致します。